

どの子も輝き
笑顔いっぱい
とねがわ幼稚園

よい頭 よい躰 強い体

とね幼だより



春を思う

園長 笛木 哲

メダカの水槽をのぞいていた子が、「メダカが死んでいるよ」と教えてくれました。よく見ると、水の底でじっとしているだけで目には光がさしています。メダカは、水温が低くなると、えさも食べずに動かない「冬眠」のような状態になります。それは、冬の厳しい環境の中、体力を使わないようにじっと動かず春を待つ姿でした。冬が終わり、暖かくなるとえさを食べ、水温が20度を超えると卵を産み始めます。水温を20度にしておけば、メダカは一年中活発に泳ぎ回り卵を産みます。しかし、そうして育てたメダカは、屋外で育てたメダカよりも寿命が短いそうです。冬を乗り越えるのは大変だけれど、メダカの体にとっては、この冷たい寒さが必要なことなのです。子どもにとっても、辛いことや我慢しなくてはならないことを経験することが、心と体を大きく成長させるために必要であることと似ています。

チューリップの芽が土の上に出ている様子を見て、「このタケノコみたいなのがチューリップになるの？」と年少さん。年中さんが、そっとチューリップの芽の先に手を触れると「痛い」と手をひっこめました。私も真似してそっと触れてみると芽の先が槍のようで、チクッと感じます。「こんなにとがっているから固い土を割って出てこられるんだね」と二人で笑ってしまいました。花を咲かせるばかりになったチューリップの芽は、きっと赤ちゃんの指のようにふくらんでいることでしょう。だから、柔らかで美しい花が咲くのです。頑固に石のようにかたくなに拒否する子どもの姿があるのは、きっと温かで柔らかで幸せそのものの子どもの姿をより鮮明にするためにあるのかもしれませんが。



地面にちょこんと顔を見せた20本ものチューリップの芽を見ていると、どこからか、春の足音や春の歌が聞こえ、春の味が口の中に広がってくるような気がします。間もなく訪れる春は、「別れ」と「出会い」、「涙」と「笑顔」の似合う季節です。その時、子ども達はまた一つ、大人に近づきます。

幼稚園からのお知らせ

- ★令和3年度に満3歳入園をご検討の方は、幼稚園までご相談ください。
- ★令和3年度ひよこ組の入会を受け付けています。ご希望の方は幼稚園までお知らせください。

とねがわ幼稚園 TEL 297-3000



子どもの姿やことばから教えてもらったこと

- 「今日は、ママの誕生日なんだ」と嬉しそうに、先生方に会うたびに笑顔でお話をしてくれた年少さん。翌日「昨日のママの誕生日はどうでした？」と担任が聞くと、「昨日はママの誕生日ではなかったよ。だって大きなケーキだと思っていたら小さなケーキだったから」 誕生日には大きなケーキで祝うものだという思い込みが子どもらしいですね。パパやママの誕生日は小さなケーキにする親の本当の気持ちは、いつか自分がパパやママになるまで分からないのかもしれませんが。
- 節分を前にしての年長さんの会話。「おうちで豆まきするの?」「パパが可愛そうだからしない」 大好きなパパに豆を当てたくない優しい気持ちが伝わってきます。

「すべてのものにはヒビがある。そして、そこから光は入る」

テレビの番組で、台湾のIT担当大臣オードリー・タンが好きだというレナード・コーエンの詩の一節を紹介していました。彼が意図した意味とは違うけれど、まさに子どもを育てることに通じるなど感じました。子ども達は、大人目から見るとたくさんの「欠点」を抱えているように思えます。でも、その「ヒビ」(欠点)の見方を変えれば『味』(その子らしさ)になり、ヒビがあるからこそ差す『光』から『希望』が生まれるのではないとも思えるのです。そう思うと子どもの『才能』(ヒビ)を大切な資質として認め、どうプラスの力にしてあげるか、側にいる大人の腕の見せ所なのでしょう。

園児が輝く時 ※毎日、HPで「その日の写真」を掲載しています。よろしかったらご覧ください。

		
<p>こぐま(未就園児教室)トイレットペーパーで思い切り遊び、最後はおにぎりを作りました。</p>	<p>ひよこ(2歳児教室) 風の強い日、テラスの日だまりで「牛さん」の手作りのこをあげました。</p>	<p>「鬼は外」 心の中に住んでいる悪い「鬼」がいなくなるように豆まきをする可愛らしい子鬼さんたち。</p>
		
<p>ハガキに心をこめて 年長さんの郵便屋さんがハガキを届けてくれたときの嬉しい気持ちは最高。</p>	<p>朝の冷たい風に負けないぞ 1月は毎日「朝マラソン」に取り組みました。どの子もよく頑張りました。</p>	<p>練習の成果を見せたコマ回し大会 一度きりの真剣勝負に笑顔と悔しさと悲喜こもごも。</p>

駐車場でお子さんを自由に遊ばせないようお願いします <子どもは飛び出すものです> 車の間を縫って走り回っていたお子さんがドアミラーにぶつかったり、車をバックさせている時に後ろを駆け抜けていったりと、「ヒヤリ」「ドキリ」とする事案がありました。